

平成 25 年 4 月 20 日

## プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2013年4月30日】

団体名 NPO法人 子どもセンターてんぼ

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

自立援助ホーム退居後の生活支援プログラム(LAP) 拠点事業

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

みずきの家の入居者には、知的障害がある者、発達障害と疑われるような強い特性を有する者等、長期にわたる支援を必要とする者が多く見られる。このような入居者、退去者に向けた具体的支援の拠点を整備し、様々なニーズに応じられるようにする。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

みずきの家から徒歩圏内にテラスハウスを確保し、LAPと名づけて具体的支援を始める。  
① 週3日、夕食とコミュニケーションの場を提供する。② 日常生活の手伝い(掃除・衣類の補修等)③ 自立スキルアップ教室の開催 ④ 緊急時の避難場所。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

す。生活支援拠点(LAP)の環境整備を行ない、LAP2階に居住する元利用者(1名)と、外部から利用する元利用者が使用しやすい場となるようにした。エアコンやドアホンの設置により、安全で快適な場になったと考える。具体的な支援として、買物の練習、料理の習得等を行なうことで、生活のリズム、安定感を持てるように支援した。集団での支援が困難で、どうしても個別支援が主になるが、心配を軽減することで、他利用者への波及効果も期待できるとある。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

みずきの家は開設から3年目で、退去した利用者の数は10名(平成25年4月1日現在)と限られる中で、将来への準備としてLAP(生活支援拠点)の活動を始めた。平成24年度は第一期として整備をしながら、試みとしての活動を展開してみたが、対象者のリソースもあり、十分なとはできずに終了した。しかし、個別支援としては十分な支えにできた事柄もあり、今後も継続し続けたい。プロジェクトにおいて後押しされ、退去者支援を模索できたことに心から感謝いたします。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし